

略歴



シディ・ウルド・タハ

アフリカ開発銀行グループ 総裁

シディ・ウルド・タハ氏は、2025年5月29日にアフリカ開発銀行グループの第9代総裁に選出されました。総会において歴史的な支持を得て、76%以上の得票を獲得し、初任期の総裁としては同行史上最高の支持率を記録しました。今回の選出は、アフリカおよびグローバルサウスにおける長年にわたる銀行業務、エコノミスト、閣僚としての経歴を基盤に、大胆な改革を推進し、アフリカ開発に測定可能な成果をもたらす確かな能力に対する株主の強い信任を反映しています。

総裁就任以前の2015年から2025年にかけて、ウルド・タハ氏はアフリカ経済開発アラブ銀行（BADEA）の総裁を務めました。在任中、同機関を格付けのない地域的プレーヤーからアフリカ最高格付けの国際開発金融機関の一つへと大きく変革させました。彼の指導の下、BADEAはAAA/Aa1/AA+という名誉ある格付けを取得し、大陸で最も信頼される機関の一つに数えられるようになりました。同行の総資産はほぼ倍増し、不

良債権比率は11%から0.4%へと大幅に低下し、アフリカの開発金融機関の中で最も低い水準を誇りました。

また、同氏の代表的な業績のひとつは、BADEAを国際資本市場に初めて参入させ、2回連続で公募債を発行することに成功した点です。

さらに、BADEAの初の10か年戦略「BADEA 2030」を策定するとともに、50年に及ぶ開発ロードマップ「BADEA 2074」を打ち出しました。先見性のあるリーダーシップ、業務のデジタル化、そして持続可能性を融資モデルの中核に据える取り組みは、環境・社会・ガバナンス（ESG）における卓越性として数々の国際的な認証を獲得しました。

彼はまた、卓越した危機対応能力も発揮しました。2019年から2023年にかけてスーダンで政治的不安や紛争が発生し、同時期に新型コロナウイルスのパンデミック危機が重なる中、BADEA本部をハルツームからリヤドへ迅速に移転させました。この二重の衝撃にもかかわらず、同行は業務の完全な継続性を維持し、全職員とその家族の安全を確保するとともに、年間の資金支出を357%増加させるという驚異的な成果を達成しました。この冷静かつ果断な危機対応は、彼の信頼される開発金融の指導者としての評価をさらに高めました。

BADEA以前には、2008年から2015年にかけてモーリタニアの経済・財務大臣および経済問題・開発大臣を務め、国家開発計画の策定に尽力し、多大な外資の呼び込みと大規模な経済改革を推進しました。さらに、アフリカ開発銀行、世界銀行、イスラム開発銀行を含む複数の国際金融機関の総務としてモーリタニアを代表し、アフリカ輸出入銀行（Afreximbank）や東部南部アフリカ貿易開発銀行（Trade and Development Bank）など主要なアフリカ開発金融機関の理事も務めました。

同氏は、フランスのニース・ソフィア・アンティポリス大学で経済学博士号を、モーリタニアのヌアクショット大学で経済学修士号を取得。さらに、ハーバード国際開発研究所、スイス金融研究所（Swiss Finance Institute）、ロンドン・ビジネス・スクールでエグゼクティブ教育課程を修了しています。アラビア語、フランス語、英語に堪能で、

ポルトガル語とスペイン語も実務レベルで操る語学力と外交的手腕を活かし、南南協力の深化やアフリカ、湾岸地域、欧州における高度なパートナーシップ構築を推進してきました。

その功績は広く認められ、モーリタニア国家功労勲章（騎士級）をはじめ、ブルキナファソ、ニジェール、セネガル、その他のアフリカ諸国からグラン・オフィシエ章を授与されています。

ウルド・タハ氏の経歴は、公共資源を管理する政策立案者として、また大陸規模の投資ソリューションを設計する金融人として、アフリカの開発金融の全領域にわたっています。さらに、国際的なドナーや格付機関、開発パートナーとの長年の関わりを通じて、国際金融の最高レベルにおける信頼できる対話者としての地位を確立しています。

アフリカ開発銀行グループ総裁としての同氏のリーダーシップは、戦略的ビジョン、業務の卓越性、そしてアフリカの変革への揺るぎないコミットメントに基づく新たな時代の幕開けを告げています。

原文は[こちら](#)（英語）